

としょかん

いわて

岩手県立図書館報

《特集》

若者と図書館

- レファレンスコーナー
- 児童コーナー
- 岩手県内図書館紹介
- 図書館掲示板

2017.10

No.181

contents

目次

ページ

01

特集

若者と図書館

- ・若い世代を対象とした参加型イベントの実施（岩手県立図書館）
- ・一関市立図書館におけるYAサービス YA資料を中心に（一関市立図書館）
- ・中高生の読み聞かせグループ「NYK48」設立に向けた
ボランティア養成講座（西和賀町教育委員会）
- ・学生目線の取り込みによる図書館の活性化（岩手県立大学）

13

レファレンスコーナー

- ・おじいちゃんから、終戦後に学校で教科書を墨で塗りつぶしたという話を聞いたけど、どうして塗りつぶしたの？
- ・石川啄木の妻・節子の遺詠歌が、実は別人の作だったという話を聞いたが、本当か。

15

児童コーナー

- ・わかば通信
手づくりかがく教室 ～かがみの不思議 ビー玉万華鏡を作ろう～

16

岩手県内図書館紹介

- ・陸前高田市立図書館

17

図書館掲示板

- ・県内で発行中！楽しい読書通帳
- ・編集後記



特集：若者と図書館

平成 28 年度「岩手県子どもの読書状況調査」※¹の集計結果によると、県内児童・生徒の1か月の平均読書冊数※²は学年が上がるにつれて減少し、図書館の本を借りての読書※³についても中学校、高校へと進学するにつれて半減しています。また、全国の大学生を対象とした「学生生活実態調査」※⁴においても、今年2月に発表された調査結果では一日の読書時間をゼロと回答した学生の割合が49%と、昨年度調査よりも若干増加していることが分かりました。それぞれ、予習・復習などの自主学習や課外活動、アルバイトなどに費やす時間が増え、相対的に読書に充てられる時間が少なくなっていることも要因の一つであろうと推察されます。

若い世代に図書館の利用を強制することは出来ませんが、図書館に興味を持ってもらえるよう、様々な取り組みを行っている図書館がたくさんあります。今回は、県内図書館等で実施されている若い世代を対象とした取り組みについて特集しました。

※1 平成 28 年度「子どもの読書状況調査」の結果について

<http://www.pref.iwate.jp/shougaigakushuu/dokusho/052007.html>

※2 県内小・中・高等学校生の1か月の平均読書冊数小学生 13.4 冊、中学生 4.2 冊、高校生 2.4 冊。

※3 地域の図書館を利用して読書をする割合は、小学生 22.4%、中学生 9.5%、高校生 4.2%と進学するたびにほぼ半減している。

※4 第 52 回学生生活実態調査の概要報告

<http://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html>



<岩手県立図書館>

若い世代を対象とした

参加型イベントの実施

図書館には日々多くの方が来館し、様々な世代の方が利用します。中学生、高校生も毎日のように図書館に来館しているのですが、小学生や成人に比べると、貸出利用やイベント参加があまり多くないという現状があります。

中高生を含む若い世代に“もっと図書館を活用してほしい”という思いで実施している参加型のイベントがいくつかありますので、今回はその中から「哲学対話」と「高校生のためのビジネスプラン作成講座」についてご紹介します。

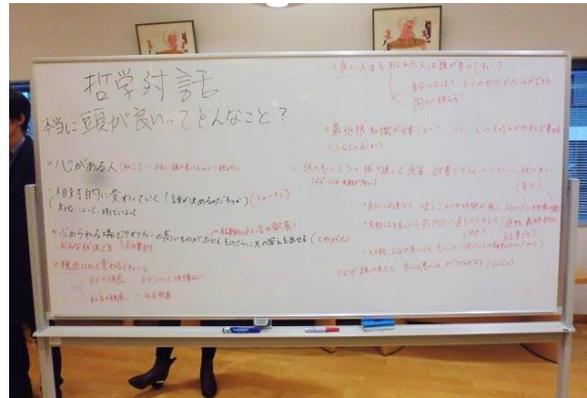
哲学対話

どんなイベント？

当館では、平成 28 年度から「哲学対話」というイベントを実施しています。イベント名を聞いて、どんなことをするのかお分かりになる方はあまりいないのではないかと思います。また、「哲学」という言葉に、何だか難しいことをするのではないかと、と思う方もいるのではないのでしょうか。

実際のところ、哲学対話には哲学の専門知識は不要で、その内容はざっくり“あるテーマについて参加者同士が語り合う”というものです。他者の考えを聞き、自分の考えをみんなに伝えることで、今までとは異なる視点や新たな考え方を発見していただき、お互いに考えを深め合う時間を持ってもらうことが、このイベントの趣旨です。このため、設定されるテーマも学問的な難しいものではなく、日常生活で誰もが一度は疑問に感じたことがあるようなものばかりです。当館で実施した際のテーマは「頭が良

いってどんなこと？」「“生きる”とは？」などで、若い世代の方が一度は疑問に思ったり、悩んだりすることではないでしょうか。



[第 1 回 (平成 28 年 2 月開催) の対話メモ]

「哲学対話」のやり方

哲学対話の実施にはそれほど大がかりな準備は必要なく、椅子と車座になれるスペース、そして進行役が一人いれば準備が整います。

対話の開始前に「発言者は皆対等な立場である」「ゆっくり聞き、ゆっくり話す」「“対話”であり“討論”ではない」「考えが途中で変わっても構わない」「なるべく、自分が経験してきたことを基に話す」「途中で入るのも、途中で出るのも可」といったルールが、進行役から伝えられます。発言者を決めるために“コミュニティボール”というものを使用しますが、手に収まるくらいのサイズのものであれば、ボールでもぬいぐるみでも構いません。コミュニティボールを持っている方が発言し、話を聞いてみたい方にボールを渡す、これを繰り返すことで対話が進んでいきます。

イベントの様子

これまで岩手県内での開催例が無く、はたして参加者が集まるのか、人前で語り合うという内容が利用者に受け入れられるのかなど、不安もありました。そのため、近隣の大学に学内で

の周知をお願いしたり、近隣の専門学校に直接周知に伺ったりもしました。その結果、平成 28 年 12 月の開催第 1 回には 20 名以上の方に参加していただくことができ、うち 8 名が 10 代から 20 代の方でした。2 時間のイベントのあいだ途切れることなく活発な対話が行われ、アンケートでも「今後も実施してほしい」との要望がいくつも寄せられました。

講演会など話を聞くことを主体としたイベントと比べると参加者が少ないように感じますが、参加者同士の対話を主体としたイベントですので、10 名程度の参加で丁度良い規模感となります。このため、人数が多い回は参加者を 2 グループに分け、それぞれのグループで対話を行ってもらおうようにしています。



【第 3 回（平成 29 年 6 月開催）の様子】

直近の開催となる第 4 回（平成 29 年 8 月開催）は、大学生から 60 代の方までの男女 10 名が集まり、「現代の理想の家族とは」をテーマに対話をしました。対話を促す進行役は、イベントの開催を持ちかけていただいた立教大学・河野教授にお願いしました。

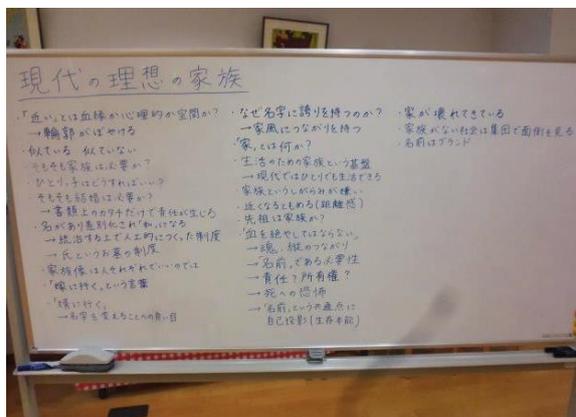
参加者それぞれの簡単な自己紹介ののち、対話が始まりました。進行役からは「家族とは何だろう？」「家族とは一緒にお墓に入るべき？」といった問いが投げかけられ、テーマについて話し合ううちに「家、婚姻とは何だろう？」「家族は必要なの？」など、新たな疑問が生まれま

した。「なぜ？」「どうして？」と、皆が一緒に考え疑問を掘り下げていく中で、参加者からは「“家”という考え方は、国を治めていく上で整えられた仕組みではないか」「家族を生活の基盤と考えるなら、インフラや福祉が整備された現代には不要ではないか」といった考え方が出されていました

世代間・利用者間の交流

当館で実施する哲学対話では、イベントの参加者を“中学生以上”としています。中学生や高校生は普段、自習やテスト勉強などで図書館を利用することが多いと思いますが、教科書からの学びだけでなく、異なる世代との交流からも有形無形問わず、様々な学びを得てほしいというねらいを込めています。年代や性別、職業、価値観、社会的な立場など、それぞれ全く異なる属性を持つ方同士が対話する場合は、図書館という様々な方が来館する場所だからこそ成立しやすいのだと思います。

また、これまでの参加の様子を振り返ると、若い世代の参加があると、それ以上の世代の方にも刺激があるようで、学生の発言を嬉しそうに見守っていました。こういった様子を見ていると、世代間交流や来館者同士のコミュニケーションを促すイベントが、図書館に求められるのではないかと感じます。



【第 4 回（平成 29 年 8 月開催）の対話メモ】

高校生のための ビジネスプラン作成講座

どんなイベント？

当館では平成 23 年度に「ビジネス支援コーナー」を開設し、当初から日本政策金融公庫の協力を得ながら起業を支援するためのセミナーを共催してきました。このセミナーは既に社会人として働いている方や起業を考えている大学生の参加が多く、それより若い中高生の参加はありませんでした。そこで、平成 28 年度からは、ターゲットをグッと若い世代に絞込んだ「高校生のためのビジネスプラン作成講座」を開催しています。



〔日本政策金融公庫職員による講義の様子〕

日本政策金融公庫では“活力ある日本を創り、地域を活性化するためには、次世代を担う若者の力が必要”であると考え、“実社会で求められる「自ら考え、行動する力」を養うことのできる起業教育を推進する”ことを目的として、平成 25 年度から「高校生ビジネスプラン・グランプリ」を開催しています（参考：日本政策金融公庫ホームページ）。グランプリには岩手県内からも複数の高校が参加しており、平成 27 年度には遠野緑峰高校の生徒が優秀賞を受賞しています。

「高校生のためのビジネスプラン作成講座」は、グランプリへの参加を促すため、日本政策

金融公庫が高校等に職員を派遣して出前講座を行うというものです。内容はタイトルに端的に示されているとおりで、日本政策金融公庫の職員がビジネスプランの立て方について講義し、それを受けて生徒たちが実際にビジネスプランを立ててみる、というものです。なお、ビジネスプランには大きく2つあり、

- (1) 人々の生活や世の中の仕組みをより良いものに変えるビジネスプラン
- (2) 地域の課題や環境問題などの社会的な課題を解決するビジネスプラン

このいずれかを柱として、講師の方から助言を受けつつ、高校生ならではの視点を盛り込んで一つのビジネスプランにまとめ上げてもらいます。

参加者の様子

平成 28 年度開催の際は、開催時期が学校の行事等に重なってしまったため、今年度はテスト期間や部活動の大会期間等を考慮して7月上旬に開催日を設定。日本政策金融公庫の方が各学校の先生に直接参加の呼びかけをしたことも功を奏し、平成 29 年度は 12 名の生徒に参加してもらうことができました。



〔ビジネスプラン作成中の様子〕

当館で実施した際は、上記(2)を土台としてプランを立ててもらおうこととし、具体的には

「岩手県の名産、特産物をPRする」というテーマが与えられました。生徒たちは4つのグループに分かれてビジネスプランを練り、例えば下記のようなアイデアが出されていました。

- ・空港で岩手の名産（おやつなど）をばら売りする（→外国人旅行者を対象とし、手元に残っている小銭を使えるメリットがある。また、売り手側も岩手の名産品をアピール出来る）
- ・地元の果物を使ったスイーツを販売（→購入者はカラフルで見栄えがする写真を随時SNSで発信したくなる。売り手側は商品をお客様にPRしてもらえる）

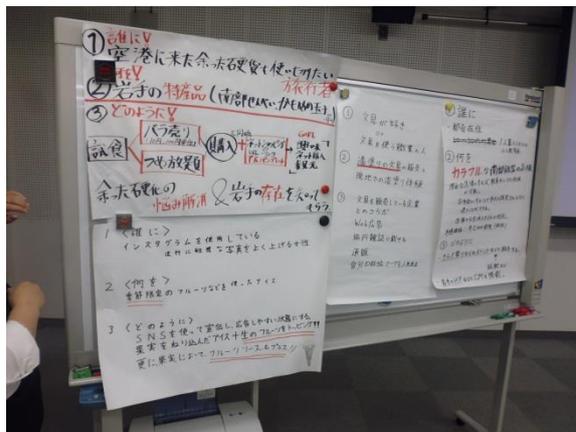
講師からは、SNSでの拡散という現代的なツールに目を付けている点などが評価されていました。また、他のグループも「伝統の漆工芸品、身近に使ってもらえるよう万年筆など文房具として販売する」など、広く岩手県の特産品について勉強している様子が窺えました。



【作成したプランを皆の前でプレゼンします】

なお、この講座では講師の方の意向もあり、インターネットなどウェブ情報は使っていません。高校生たちは図書館で得られる限りの情報と自らの知恵、グループ内での討議を通じて、ビジネスプランを立てました。県内各地には沢山の名産・特産物がありますが、その売り込み

に高校生の感性も活かしていくことで、新たな突破口を見出せるのかもしれませんが。



【ビジネスプランをまとめたメモ】

高校生ともなると自分の将来、仕事・進路の選択や生き方に「現実」を感じる年頃です。普段は自習でしか図書館を利用しないという方も多いでしょう。しかし、図書館には先人の経験や知恵が「本」という形で集積され、同年代や異世代の方が集う「場」という魅力があります。高校生たちがその魅力を体感し、人生の岐路に図書館を利活用してくれたら、と願います。

【参考】

- こどものための哲学 (philosophy for children)
https://www.youtube.com/watch?v=0b222t_8P34
 - 高校生ビジネスグランプリ
<https://www.jfc.go.jp/n/grandprix/>
- ※「哲学対話」と「高校生のためのビジネスプラン作成講座」の開催に至る経緯は、『としよかんいわて No.180』の特集に掲載しています。

（岩手県立図書館 姉帯裕子・安倍和恵）



<一関市立図書館>

一関市立図書館におけるYAサービス YA資料を中心に

一関市の概要

一関市は総面積約 1,260 平方キロメートル、人口約 12 万人（平成 29 年 9 月現在）、8 市町村が合併した自治体です。一関市立図書館は合併前の各市町村に設置されていた 8 館から構成され、各図書館の特徴を活かした運営をすすめています。市内の学校は、小学校 33 校、中学校 18 校、高等学校 8 校、特別支援学校 1 校があり、このほかに高等専門学校 1 校、短期大学 1 校、看護学校などの専修学校 6 校があります。

青少年サービス

平成 28 年 2 月、一関市立図書館振興計画および前期サービス計画を策定しました。そのなかで「青少年へのサービス」として「十代の感性を考慮した資料や情報の提供」「参加型行事の開催」「学習や進路選択と就職に役立つ資料、情報の提供」を掲げました。ここでは YA 資料の収集を中心に、青少年を対象としたサービスの事例を紹介します。



[一関図書館のティーンズコーナー（全景）]

① ヤングアダルト（YA）資料

一関市立図書館 8 館では約 39,000 点の YA 資料を所蔵しており、うち約 25,000 点が開架にあります（平成 29 年 4 月時点）。また、ライトノベル文庫を約 6,000 点所蔵し、多い館では YA 資料点数の 48% をライトノベル文庫が占めています。これらライトノベル文庫は、中高生などの利用促進を目的に各館で整備がすすめられたもので、リクエストにも積極的に応えてきました。実際の利用者は小学校高学年から成人までと、幅広い年代に利用されています。大東図書館の移動図書館車では、小学校高学年の児童への貸出やリクエストが多く、中学校での読書につながる事例もみられました。また、20 代以降の成人にもライトノベル文庫を好んで利用する方がみられます。読みやすさ、手に取りやすい判型やイラスト、その内容などにより幅広い年齢層に求められていることから、ライトノベル文庫は読書促進に一定の役割を果たしていると考えられます。

ただし、YA 資料のなかでライトノベル文庫ばかりが利用されているわけではありません。一関市立図書館全体での平成 28 年度 YA 資料ベストリーダーによると、ベスト 10 までのうちライトノベル文庫は 4 点、他は一般文芸書でした。また、先述した移動図書館車ではベスト 10 のうちライトノベル文庫は 2 点、実用書（主に部活動関連図書）が 6 点、一般文芸書が 2 点でした。

図書館におけるヤングアダルトサービスの使命は「情報資源へのアクセスならびに、知的・情緒的・社会的発達のためのヤングアダルト特有のニーズに応える環境、の両方を提供することによって、個人が子どもから大人への移行に成功するように支援すること」です（参考：IFLA [国際図書館連盟] ヤングアダルトへ

の図書館サービスガイドライン 2008年)。青少年の発達と自立を支援するために、一関市立図書館では様々なYA資料を収集してきました。

平成26年に新館オープンした一関図書館を例にあげると、YA資料の開架点数は新館開館前の約2,300点から約11,000点に増加しました。その増加分の中心は0～8分類と一般文芸書であり、ライトノベル文庫の増加はわずかです。旧館からあった進路選択や部活動関連図書を拡大収集し、そのほか青少年が直面する課題に応え、自立を支援する資料を実用、文芸ともに収集しました。また、市内に看護学校があることから看護・医療関係資料を、各分類についても大学1年生程度までの内容の資料を収集しました。



【一関図書館のティーンズコーナー（進路選択支援資料）】

新館開館後、13歳～22歳の利用者の貸出点数は、平成25年度の9,045点から平成26年度の19,890点（※新館移転のため7/24～3/31のみ開館）、平成27年度の29,975点へと飛躍的に増加し、平成28年度も前年度と同程度の貸出数を保っています。新館開館による新規来館者の増加と、そのニーズにあった資料を用意できたことが貸出点数増加の一因と考えられます。今後も市内8館において、青少年の発達と自立の支援のため、様々な資料の収集・貸出を行っていきます。

② 事業

一関市立図書館全館で実施している青少年を対象とした事業のうち、特徴的なものを紹介します。

学校図書館ネットワーク事業（小中学生対象）

合併以前より形を変えながら実施しています。旧東磐井郡の学校図書館の電算化と、公共図書館の蔵書データ提供、学校図書館への読書普及員の配置、資料配送ネットワークの構築からなり、公共図書館の資料を小中学校の電算システムでも利用することができます。平成29年度より読書普及員が週1回図書館勤務となり、連携を密にすることで小中学生への支援を一層進めていくことが期待されています。

調べ物学習、ブックトーク（中学生対象）

川崎図書館で平成28年度から実施しています。調べ物学習は図書館へ来館してもらい、資料の分類・調べ方などについて司書から説明を受けた後、各自のテーマについて調べるといったものです。図書館の基本的な使い方を学ぶよい機会となっています。ブックトークは中学校へ訪問して実施しています。アンケートではほとんどの生徒が「普段手に取らない本でも紹介されると読みたいと思った」と回答してくれました。



【川崎図書館 ブックトークの様子】

ビブリオバトル（中学生対象）

一関図書館で平成 29 年 8 月に開催しました。中高生の参加型事業として企画し、中学生 10 名、高校生 1 名の参加がありました。参加者からは「面白そうな本を知ることができた」と好評で、また参加したいとの意見をいただいています。



[一関図書館 ビブリオバトル]

これからの課題

振興計画およびサービス計画にもとづき、ヤングアダルト向けブックリストの作成、参加型行事の企画、普及員を通じた青少年の読書状況の把握などをすすめています。また、他機関との連携（高専、短大、専修学校、ジョブカフェなど）については今後の課題となっています。

（一関市立大東図書館 舛屋藍）

YAおすすめ情報紙（小学校高学年～成人対象）

大東図書館で平成 29 年度から発行しています。A5 サイズ・隔月刊で、ヤングアダルトへ司書がおすすめする本を紹介するものです。大東地域の中学校・高校図書館および移動図書館車などで配布しています。



[大東図書館 YAおすすめ情報紙]



<西和賀町教育委員会>

中高生の読み聞かせグループ 「NYK48」設立に向けた ボランティア養成講座

きっかけ

当町には読み聞かせボランティアのグループが複数ありますが、近年、高齢化によりボランティアの数が減少傾向にあります。そこで、中高生の読書推進を図るとともに社会参加を促す機会にしようと企画したのが始まりです。

「NYK48」は、西和賀 (Nishiwaga) ・読み聞かせ (Yomikikase) ・会 (Kai) の頭文字で、48は参加目標人数を表しています。

ボランティア養成講座の概要

この講座は、夏休み期間を使って町内中高校生を対象とした読み聞かせボランティアの養成講座で、今年度初めて企画しました。読書離れが進んでいると言われていた中高生に本が持つ魅力を再認識してもらい、中高生の来館者が少ない町立図書室への関心を高めてもらうため、読み聞かせの仕方やポップなど本の魅力を伝える方法を学び、読書推進の担い手を育成することを目的としています。

今年度は中学生2人、高校生10人が参加しました。養成講座は3日間、5つの講義で構成され、全講義の修了者に、養成講座修了証と町教育委員会・町社会福祉協議会公認ボランティア「NYK48」の会員証を発行しました。

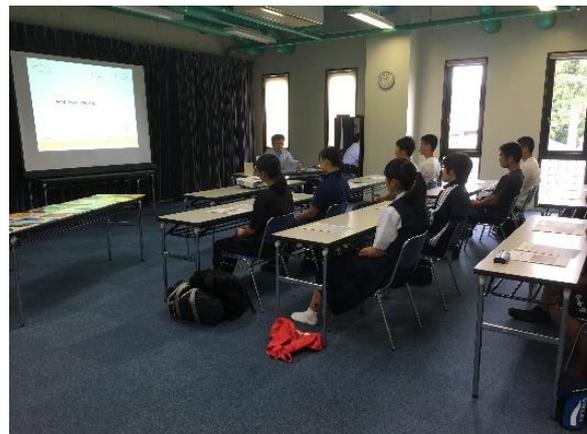
講義①②

「絵本の読み聞かせ方」講座・実演

8月4日(金)、町立図書室に隣接する西和賀町文化創造館を会場に「絵本の読み聞かせ方」

講座を実施しました。東日本大震災津波の被災地等を訪問して読み聞かせをおこなってきた当町教育長が講師を務め、前半(講義①)は、絵本の読み聞かせの仕方について経験談を交えながら説明しました。また、「読み聞かせは子どもたちに幸せな気持ちになってほしいためにおこなうもので、自己満足ではなく、聞き手(子ども)に寄り添った読み聞かせをしてほしい」と読み聞かせボランティアとしての心構えを伝えました。後半(講義②)は、二人一組になり交互に読み聞かせの実演を行いました。

最初はぎこちなく読み聞かせをしていた受講生も、コツを掴んだのか柔らかい表情と感情が込められた声で徐々に上達していきました。



「絵本の読み聞かせ」講座の様子

講義③④

図書館司書体験、ポップ作り講座

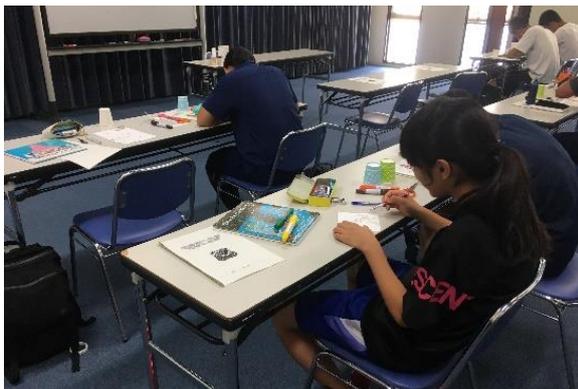
8月7日(月)、町立図書室を会場に「図書館司書体験」および「ポップ作り」講座を実施しました。講師は、岩手県立図書館指定管理者の似内千鶴子さんが務めました。

前半(講義③)は、図書館の役割や図書館司書の仕事内容についての講習を受けた後、図書室において実際に配架・書架整理の業務をおこなないました。受講生たちは、背ラベルとにらめっこしながら地道に元通りの場所に戻っていました。



〔配架・書架整理の様子〕

後半（講義④）は、各受講生が本を一冊選び、その本を紹介するポップを作成しました。「絵が苦手」「何を書いたらいいんだろう」と悩んだ様子を見せていましたが、いざ始めると集中して作業していました。



〔ポップ作成の様子（上）と完成したポップ（下）〕

講義⑤

「読み聞かせ会」実演実習

8月8日（火）のせんだん保育所には3人の中高生が、8月9日（水）の川尻保育園には9

人の中高生が参加し、読み聞かせ会の実演実習をおこないました。読み聞かせ会の進行等は当町教育長が務め、せんだん保育所では3人がそれぞれ2冊ずつ読み、川尻保育園においては途中2グループに分け、全員が1冊ずつ読むことができるよう工夫しました。

始まる前は「緊張する」と表情が強張っていた受講生たちですが、園児たちの前に出ると緊張していた顔が柔らかい表情になり、感情が込められた声で園児たちを物語へと引き込んでいきました。園児たちが知っている絵本が出でくると「知ってる！」「この本持ってる！」といった声があちらこちらから飛んできました。

実演実習終了後、教育長から養成講座修了証書と「NYK48」会員証を授与された中高生たちの顔は少し照れくさそうでしたが、「初めてのことで緊張したが、子どもたちに喜んでもらえてよかった」「子どもたちに本の魅力をもっと知ってもらいたい」と話していました。

今後について

町立図書室を会場とすることで、読書・読み聞かせに関心のある中高生に司書の仕事や図書館サービスについて知ってもらうことが出来ました。また、自分なりの表現を活かしてポップを作成することで、達成感を持ってもらうことができました。今後は、養成講座修了者を中心に町内のイベント（10月の「西和賀町福祉まつり」に参加予定）で読み聞かせの活動をしていくことができたらと考えています。

今年度の事業の様子は、新聞各紙（岩手日報・岩手日日）および『広報西和賀』に取り上げられ、読書推進事業として町民や町内の読み聞かせボランティアにも認知されたところです。次年度も継続して実施し、中高生の読書推進の輪を広げていきたいと考えています。

（西和賀町教育委員会 田村奈々）



<岩手県立大学>

学生目線の取り込みによる

図書館の活性化

きっかけ

岩手県立大学メディアセンター（図書館）では、学生サポーターであるライブラリー・アテンダント（以下LA）が、学生目線による図書館サービス改善や利用促進のため、企画展示や利用案内、広報等の活動を行っています。

LA結成のきっかけは6年前。インターネットの普及や学術資料の電子化の進展、また、アクティブラーニング型授業の推進などにより、学生の学習活動が変化してきたことに伴い、図書館の果たすべき役割や機能にも変化が求められていました。そこで、平成24年度より3カ年計画でラーニング・コモンズ（※）の整備を行いました。整備における二本柱となったのが学生の学習スタイルにあわせた「場」の整備、そして学生の自学自習を支援する「人的なサービス環境」の整備です。設備を整えるだけでなく、学生目線を取り込んで図書館を活性化しようとしてLAを募り、活動をスタートして今年で6年目です。

※ラーニング・コモンズ

複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの。その際、コンピュータ設備や印刷物を提供するだけでなく、それらを使った学生の自学自習を支援する図書館職員によるサービスも提供する。

【参考】

・「大学図書館の整備について（審議のまとめ）－変革する大学にあって求められる大学図書館像－」平成22年12月「用語解説」（文部科学省HPより）

活動内容

これまで、企画展示や利用案内、広報のほか、読書会や大学祭でのビブリオバトルといったイベントの企画・開催、また、これらの活動を学生協働シンポジウム、図書館総合展ポスターセッションといった学外において発表したり、他大学図書館の学生サポーターと交流するなど、学内外で活動を行ってきました。



【新入生へ図書館を案内する様子】

LAは毎年度募集を行い、1年間の任期で活動を行います。今年度は31名と、多くの学生が集まったこともあり、企画展示と広報活動の2つのグループに分かれて活動しています。

企画展示では、学生が興味を持ちそうなテーマを自ら設定し、ポスターの作成や紹介文を記載したポップづくりを行っています。今年度は6月～10月に「社会人としてのスキル・マナー」というテーマで常識やマナー、コミュニケーションスキル、メールの書き方といった本を展示し、学生に多く利用されています。



【企画展示の準備で本を並べています】

広報活動では、Facebook 等の SNS への投稿、図書館だよりの作成補助を行い、イベント情報や LA の活動風景など学生の言葉で情報発信しています。昨年 12 月からは、LA の意見で学生にとって身近なコミュニケーションツールである twitter のアカウントを開設し、より即時性をもって、図書館の利用案内等の情報を積極的に発信できるようになりました。また、図書館だよりで、教員のお勧め図書を紹介するコーナーの執筆依頼や、知っていると便利な図書館の利用方法等についての記事を LA が担当しています。



[読み聞かせの活動も行っています]

課題

図書館と LA との協働により様々な取り組みを行い、LA の活動によりサービスが充実してきた一方で、課題も出てきました。卒業年次生を対象としたアンケートにより、図書館に対する満足度が年々高まっている一方で、図書館をほとんど利用しない、どのようなサービスがあるか知らないという学生が増加しており、図書館を普段からよく利用する学生と、ほとんど利用しない学生が二極化している傾向が明らかになりました。今後、後者のような学生にどうアプローチしていくか、LA と協働しながらアイデアを生み出していきたいと考えています。



[左側の人は手でローマ字の「L」、右側の人は「A」を作り、LA のポーズをとっています]

選書ツアー

LA の他にも、図書館が“学生目線”を取り入れるための取り組みとして「選書ツアー」があります。学生とともに書店に赴き、学生が学習に必要な本や自分が読みたい本、他の利用者に勧めたい本など、学生目線で図書館に揃えたい本を選ぶイベントで、平成 23 年度以降毎年実施しています。今年度も 6 月に実施し、10 人の学生によって 213 冊が選ばれました。選ばれた本は参加者の PR 文を載せたポップとともに館内に展示し、貸出しも好調です。



[選書ツアーの様子です。市内の書店で、選んだ本の ISBN を専用の機械で読み取っています]

選書ツアーで選ばれる本は、参加学生の所属学部に関連する専門書や趣味に関する本、ハウツー本や小説など多岐にわたります。学生が図書館に不足していると思う資料を補うとともに

に、利用者にとって魅力ある蔵書整備につながっています。

******* 参加学生の感想 *******

- ・自分の好きなジャンルだけでなくさまざまな本を吟味して選ぶことができました。とても楽しい時間でした。
- ・語学系の本が大学にもう少し欲しいなと思ったし、自分が勉強しているロシア語を中心に大学で履修できる外国語の本も少し選んでみました。去年も選書ツアーに参加しましたが、好きな本を選べるのでやっぱり楽しかったです。
- ・事前に選書する本を選んでいましたが、本屋で探す過程で気になった本を入れてしまいました。
- ・多くの人に利用してもらえるような本はどんな本か考えながら、楽しく選ぶことができました。学生目線で選んだ本を、図書館をあまり利用しない人にもぜひ読んでほしいです。

選書ツアー開催のメリットは、蔵書の充実を図れることだけではありません。予算や選定基準などの条件を満たしていれば、どんな本を選んでもよいという自由度の高さが、選ぶ本の多様性につながり、参加学生はもちろん、利用者にとって新たなジャンルへの興味を広げるきっかけになっています。また「難しそうな本が多い」という大学図書館のイメージを壊し、「様々なジャンルの本がある面白い場所」と認識してもらおうPRとしての効果も感じています。

(岩手県立大学メディアセンター)

レファレンスコーナー

県立図書館に寄せられたレファレンスの事例を紹介します。

Q. おじいちゃんから、終戦後に学校で教科書を墨で塗りつぶしたという話を聞いたけど、どうして塗りつぶしたの？

夏休みに小学生から寄せられた質問です。子どもにもわかるよう、児童書を中心に調査しました。また、実際の「墨ぬり教科書」がどんなものだったのか、復刻版の資料で“墨ぬり前”と“墨ぬり後”の内容を、実際に比べて見てもらいました。

【回答】

墨で黒く塗りつぶされた教科書は、「墨ぬり教科書」と呼ばれています。戦前に使用されていた教科書は、国が編集・発行する「国定教科書」とよばれるものでした。その中身は、子どもを戦争にかりたてるための軍国主義的な内容でうめつくされていました。終戦直後の昭和 20 年 9 月から授業をはじめるとあって、文部省は教科書の中の軍国主義的な記述を消すように指示しました。しかし、新しい教科書の発行が間に合わず、これまで使っていた教科書の不適当な箇所を削除して、使用せざるを得なかったのです。

墨ぬりは、「何ページの何行目から何行目まで」などという教師の指示に従い、生徒自身が塗りつぶすことになりました。戦争を思い起こさせるような、「兵隊」や「飛行機」などの言葉を次々に消していった結果、ほとんど真っ黒になったページもありました。このときの生徒は、なぜその部分を消すのか、理由を教えてもらえないまま、墨を塗っていたそうです。また、「墨ぬり」以外にも、紙貼り、破り捨て、糊付けといった方法で、削除訂正がなされていたこともわかります。

終戦を象徴する出来事であると同時に、軍国主義から民主主義へと転換した、激動の時代であったことが改めて読みとれる事例でした。

キーワード： 墨ぬり教科書 戦後教育

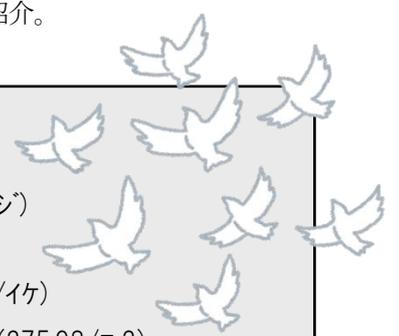
【調査プロセス】

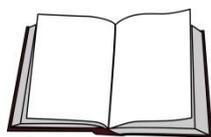
1. 児童書の太平洋戦争関連の資料（210 付近）をブラウジング。
2. 「墨ぬり教科書」について、写真などで分かりやすく解説している資料を紹介。
3. 復刻版の「墨ぬり教科書」から、墨ぬり前後の内容を比べてもらう。

【参考文献】（ ）内は当館請求記号

1. 『戦争とくらしの事典』 ポプラ社 2008 年（J/210/セン）
2. 『アジア・太平洋戦争』 森 武麿 || 監修 ポプラ社 2006 年（J/210/アジ）
3. 『池上彰の現代史授業 21 世紀を生きる若い人たちへ 昭和編 1』
池上 彰 || 監修 著 ミネルヴァ書房 2014 年（J/210/イケ）
4. 『復刻 墨ぬり教科書 国民学校初等科国語教科書』 大空社 1985 年（375.98/コ3）

※ 教科書は、『ヨミカタ 二』、『よみかた 四』、『初等科国語 二、四、六、八』の墨ぬり前と墨ぬり後のものがあります。





Q. 石川啄木の妻・節子の遺詠歌が、実は別人の作だったという話を聞いたが、本当か。

〔回答〕

石川節子（旧姓・堀合）は才女として知られ、啄木が主宰した雑誌『小天地』にも13首の短歌を寄せています。弟の堀合了輔が著した『啄木の妻 節子』には、この13首のほか啄木没後の作とされる歌も含んだ作品が掲載されていますが、昭和54年刊行の増補改訂版あとがきには“最近、亡姉自作歌について巷間二、三の疑問を伝えられたが”とあり、詳細は不明なものの遺詠歌の作者について異説があることを伺わせます。

雑誌論文に詳しい情報がないか調べるため、「国立国会図書館サーチ」でキーワード「節子」「遺詠」を検索したところ、『国文学 解釈と教材の研究』23巻8号に掲載された「啄木没後 妻節子の遺詠九首は別人の作か」（岩城之徳）という記事が見つかりました。記事には、遺詠歌の作者を巡る調査の経緯が、詳しく書かれていました。

節子の遺詠とされる歌を広く紹介したのは、啄木研究家・吉田孤羊の「啄木夫人の生涯と芸術」（『啄木を繞る人々』所収）でした。しかし、これは大正10年に「一関 一枝子」の筆名で“彼女の遺して行つた歌稿を持つてをりますから、これから少しづつ御誌にお送り致します”という前書とともに雑誌に掲載された投稿歌「詩人啄木の妻の歌」でした。節子自身の歌稿は見つからないまま、これが「啄木夫人の遺詠歌」として定説化していったようです。その状況を転載させたのは、昭和48年頃、当時盛岡第一高等学校の教諭をしていた啄木研究家の遊座昭吾のもとへ届いたある生徒の母親からの手紙でした。そこには、節子の遺詠歌とされている歌が別人の作であること、かつて作者本人から告白されたことが書かれていました。自身の境遇を節子の心情に仮託して詠んだ歌が、やがて節子自身の歌として広がっていったようです。その後、研究者らの調査もあり、現在では「啄木夫人の遺詠歌」9首は別人の作であるというのが、定説となっています。

レファレンスの回答には、はっきりと答えが出せるものもありますが、諸説あるものや研究の中で過去の定説が覆っていったものも多く、広く複数の資料にあたるのは基本中の基本です。それをあらためて感じさせられた事例でした。

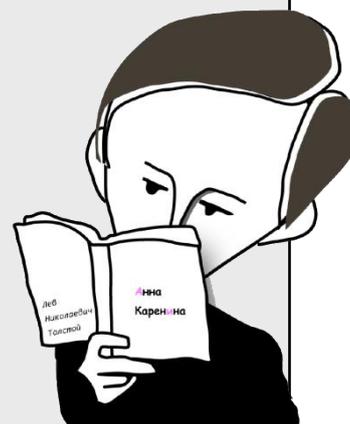
キーワード：石川節子 石川啄木 短歌 遺詠

〔調査プロセス〕

1. 石川節子に関する資料を確認。
2. 「国立国会図書館サーチ」をキーワード「節子」「遺詠」で検索。
→岩城之徳「啄木没後 妻節子の遺詠九首は別人の作か」（『国文学 解釈と教材の研究』23巻8号）
3. 2の記事の参考文献を確認。

【参考文献】（ ）内は当館請求記号

1. 『啄木の妻 節子 改訂増補』堀合了輔 || 著 洋々社 1979年 (タ/ホ3/1b)
2. 『啄木を繞る人々』吉田孤羊 || 著 改造社 1929年 (タ/ヨ1/13)
3. 『国文学 解釈と教材の研究』23巻8号 学灯社 1978年 (タ/ガ2/4)
p.38~40 「啄木没後 妻節子の遺詠九首は別人の作か」(岩城之徳)
4. 『街もりおか 1978年3月号』杜の都社 1978年 (KS05/マ2/123)
p.36~37 「かりそめの三十一文字」(遊座昭吾)
5. 『啄木研究 第4号』洋々社 1979年 (タ/910.268/タ/4)
p.137~142 「石川節子作歌の真贋」(清水卯之助)
6. 『石川啄木伝』岩城之徳 || 著 筑摩書房 1985年 (タ/イ1/51)
7. 『風光る：岩手大学退任記念』石川精子 || 著 1994年 (K/490/イ28/1)



児童わかば通信



手づくりかがく教室

～かがみの不思議 ビー玉万華鏡をつくろう～

夏休みは読書感想文に自由研究となにかと大忙し！ 遊んでいる暇なんかちっともなかった…なんて、そんな寂しいお休みにはならないように、それなら宿題を楽しくやっちゃいましょう！ ということで、みんなの夏休みを少しでも応援させてもらうため、図書館では7月22日（土）に「手づくりかがく教室」を開催しました。鏡の歴史を勉強した後、ビー玉を使った万華鏡を作りました。お家にあるもので簡単に作れるこの万華鏡は、見るものによって模様がどんどん変わります。



おはなし会

はじめは絵本を読みました
とっても不思議な鏡のおはなし



鏡の歴史について

鏡の歴史としくみを勉強しました。
水に映して見ていたものが
ピカピカに磨いた銅に替わり
今の鏡になっていったんだね！



富士山が
湖にさかさまに
映ってる！！

『なんでも見える鏡 シブシーの昔話』
フィツォフスキ//再話
内田 莉紗子//訳 スズキ コージ//画
福音館書店 1989



かがみえほんシリーズ

あれ？絵が半分しかない絵本だよ？

これはページを立てると
お互いのページが写り込んで
ある場面が見えてくる
おかしな絵本なんだよ

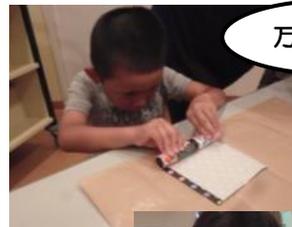
・『かがみのサーカス』
・『きょうのおやつは』
・『ふしぎなにじ』
わたなべ ちなつ//さく
福音館書店 2016



合わせ鏡 体験中

持ってきた手鏡を使い
ぬいぐるみを囲んで
合わせ鏡をつくります
ぬいぐるみはいくつに増えたかな？
万華鏡のしくみ発見!!

ぬいぐるみが
たくさん
増えました



万華鏡工作



上手くいかなくても 諦めません
なんどもなんどもビー玉をはめ直して
自分だけの万華鏡を完成させました



みんなが
作った



万華鏡です♪



岩手県内図書館紹介



岩手県内各地の図書館について紹介いたします。

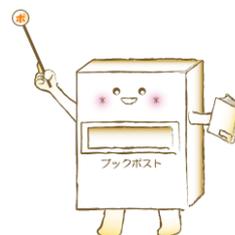
図書館名		陸前高田市立図書館		
所在地		〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字馬場前89-1 TEL 0192-54-3227 / FAX 0194-54-3485 ホームページ http://www.city.rikuzentakata.iwate.jp/tosyokan/		
施設の利用状況と概況	開館	平成29年7月20日(昭和39年4月)		
	延床面積	894.73㎡		
	構造	木造平屋建て		
	蔵書数	65,000冊 ※H29.7.20現在		
	登録者数	3,417人 ※H29.8.30現在		
入館者数	24,875人 ※H29.7.20～H29.8.30現在			
図書館の特徴		<p>10mかさ上げした中心市街地に建てられ、商業施設と併設しています。</p> <p>柱には岩手県産のカラマツ、床材には気仙杉を使用しており、木の良い香りの中で読書を楽しめると好評をいただいています。</p> <p>蓋付きであれば飲み物の持ち込みが可能です。</p>		
主な事業など		<p>郷土資料、東日本大震災関連資料を積極的に収集・保存しています。 関連コーナーには東京都立中央図書館に修復していただいた被災した資料を展示しています。</p> <p>■ブックスタート事業 7ヶ月健診時にボランティアの方々のご協力をいただき、絵本のプレゼントを実施しています。 1歳6ヶ月、2歳6ヶ月、3歳6ヶ月の各健診時にはフォローアップとして大型絵本などの読みきかせを行っています。</p> <p>■おはなし会 「おはなしペパン」「読書ボランティアささ舟」の二つのボランティア団体にご協力いただき、毎月乳幼児向けと幼児・小学生向けを各1回ずつ、絵本の読み聞かせ、素話、わらべうたなどを行っています。</p>		



県内で発行中！楽しい読書通帳

新聞などで取り上げられ耳にする機会が増えた「読書通帳」。以前から補助金等を活用して発行している図書館もありましたが、予算やデザインなど検討が必要な事柄もあり、導入をためらっている図書館もあるのではないのでしょうか。このコラムでは、県内の読書通帳実施館7館から情報を提供していただき、各館独自の、地域の方々に活用されている通帳をご紹介します。

今回ご紹介した以外にも「読書通帳」を実施されている館がありましたら、図書館掲示板にて紹介させていただきますので、編集担当まで情報をお寄せください。



花巻市立図書館『読書おもいで帳』

開始時期	通帳への記入方法	頒布方法
平成 29 年 7 月～	専用機械で記入	配布
頒布数	配布対象	利用する年代
332 部 (※ 9 月末現在)	市内小学校 1 年生	-
利用者の反応	読んだ本など記録に残るので「嬉しい」「記帳するのが面白い」などの反応があった。	
満 期 時	特になし	
参 考 U R L	http://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/501/504/p008162.html	

北上市立図書館『読書通帳』

開始時期	通帳への記入方法	頒布方法
平成 27 年 4 月～	自書	配布・ダウンロード
頒布数	配布対象	利用する年代
約 8,500 部	希望する利用者 北上市内の小学 1 年生全員 ブックスタート対象者	主に小学校低学年
利用者の反応	<ul style="list-style-type: none"> 読書通帳を気に入り 5 冊以上発行した利用者もいる。 市外の利用者が自分の住む自治体でも実施してほしいと話していた。 記入し終えた通帳をクラスごとに取りまとめてくれる学校が 2 校ある。先生からは、読書の励みになるとの言葉をいただいた。 	
満 期 時	新しい通帳と賞状を渡す	
参 考 U R L	http://www.city.kitakami.iwate.jp/docs/2017013100038/	

どくしょつうちょう
読書通帳

なまえ
名前

きつぱう
冊目

きたかみしつりょうとしかくかん
北上市立図書館

よみはじめ月日 ～おわり月日	本のなまえ	メモ (印字可能なスペース、印字不可!!)
5/1～5/2	ぐりとくら	わたしもおおきなカステラたべたい! ★★★★★
1		☆☆☆☆☆
2		☆☆☆☆☆
3		☆☆☆☆☆
4		☆☆☆☆☆

よみはじめ月日 ～おわり月日	本のなまえ	メモ (印字可能なスペース、印字不可!!)
27		☆☆☆☆☆
28		☆☆☆☆☆
29		☆☆☆☆☆
30		☆☆☆☆☆

おめでとう!! 30冊よみおりましたね!
中央・江刺子・利根図書館のいずれかのカウンターに読書通帳を持ってきてください。

山田町立図書館『読書通帳』

開始時期	通帳への記入方法	頒布方法
平成 28 年 7 月	専用機械で記入	配布
頒布数	配布対象	利用する年代
約 1,600 部	図書館で本を借りた方のうち希望者に配布	年代に関係なく登録者のほとんどが利用
利用者の反応	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちは通帳に帳が増えることが楽しみで、本を借りる動機づけになっている様子。 年配の利用者からは、自分が以前に借りた本かどうか確認できると好評。 	
満期時	検討中	
参考 URL	-	

久慈市立図書館・山形図書館『あまちゃん読書通帳』

開始時期	通帳への記入方法	頒布方法
平成 28 年 4 月 23 日	自書	配布
頒布数	配布対象	利用する年代
約 450 部	図書館利用者のうち希望者に配布	年齢問わずどなたでも
利用者の反応	未就学児や小学校低学年が親子で読書量を競い合う姿が見られるようになった。	
満期時	景品をプレゼント	
参考 URL	-	

岩手県立図書館報

としょかん いわて

No. 181

発行日 平成 29 年 10 月 31 日

編集・発行 岩手県立図書館